3. 地図と写真で見る明原の変遷

戦後の昭和 20 年代（昭和 1945 年～）、30 年代、40 年代、50 年代および現在（2016 年）の明原地区の変遷を地図と写真で紹介しました。なお、空中写真（航空写真）は、国土地理院のホームページに掲載されているものです。

昭和 20 年代の明原地区は水田に囲まれた土地で、住宅よりも林や草原、畑が多くを占めていました。昭和 30 年代初めから昭和 45 年にかけて区画整理が行われ、現在の道路や公園が造られ、水田も埋め立てられました。また、林や畑も宅地に変わってきました。

3.1 昭和 20 年代の明原(1945 年～)

昭和 20 年代前半の明原地区を含む地図としては、国土地理院の前身の地理調査所が発行した 5 万分の一の地図くらいしか見当たりません。しかし、縮尺が大き過ぎて明原の状況は分かりません。なお、住宅地図が登場するのは比較的新しく、柏の住宅地図が市販されたのは 1960 年代後半のことです。

そのため、空中写真で終戦直後の明原地区を見ることにしました。本書の巻頭 3 頁に示した空中写真は、米軍が昭和 22 年 10 月に撮影したものです。

＜周辺地域＞

昭和 22 年の写真の左下に柏競馬場があります。昭和の初め頃から競馬が開催されていたもので、戦後も昭和 25 年まで競馬が行われていました。その右には、多数の住宅が並んでいます。JR の前身の国鉄の平屋の社宅群で、鉄道官舎と呼ばれていました。中央下には旧制東葛中学があります。学制改革により昭和 23 年 4 月に、男女共学の現在の東葛飾高等学校になりました。校庭の配置は今と少し違っており、西側には小高い松の林がありました。

右下は柏駅と、その東口の商店街や住宅街です。柏は駅の東側が開けており、終戦直後にも多くの住宅が建っていたことが分かります。柏駅西口はまだ開設されておらず、西口側は駅裏で畑になっていたようです。

右上には、柏一小が見えます。昭和 22 年 4 月に、柏国民学校から柏第一小学校に改称されました。なお、柏中も昭和 22 年 5 月に創設されていましたが、校舎の建設が間に合わず、柏一小の仮教室が使用されていました。

＜明原地区＞

幅広の帯状の場所は水田です。水田は、柏駅の駅裏あたりから、東葛中学や鉄道官舎の北側を経て、北方向に向かい大堀川へと続いていました。また、現在の明原二丁目とあけぼの町の間にも水田がありました。明原地区は水田に囲まれ、少し高くなった土地であったことが分かります。

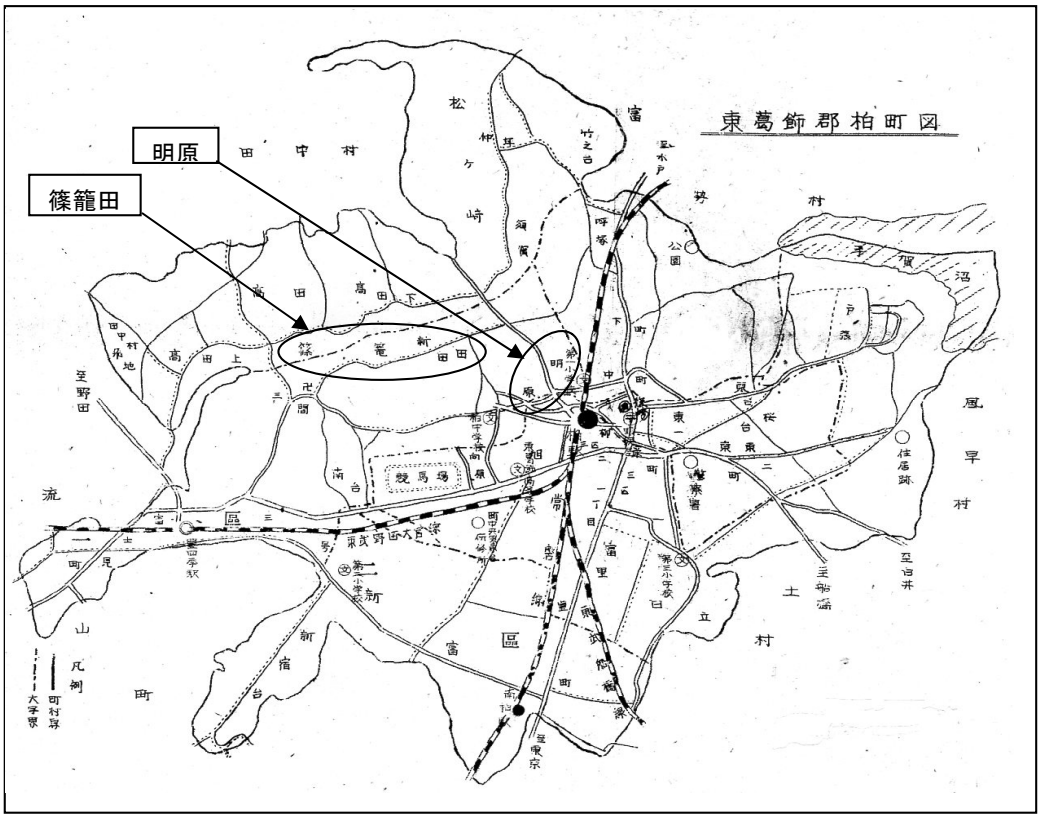
濃い黒い場所は林で、小さい四角で区切られた場所は畑です。四角に区切られていない場所の多くは草原です。当時は、明原地区の大半を畑、林、草原が占めていました。現在の二丁目地区にはかなり住宅がありましたが、一丁目地区には数える程しか住宅は建っていません。明原三丁目と四丁目地区には、ほとんど住宅が無かったことが分かります。

＜20 年代の柏町＞

昭和 29 年 9 月に東葛市が誕生するまで、明原地区は柏町に属していました。柏町は、明治以前からあった数か村が連合村や組合村の形成を経て、大正 15 年に誕生したものです。

明原地区は、明治以前に篠籠田村であった地域の東側に位置しています。旧篠籠田村の地域の大半は、柏町では大字篠籠田の地名となっていました。明原地区は、時期と場所により、篠籠田（篠籠田上須原・下須原)、明原町、明原 1～4 丁目などの地名に変わり現在に至りました。

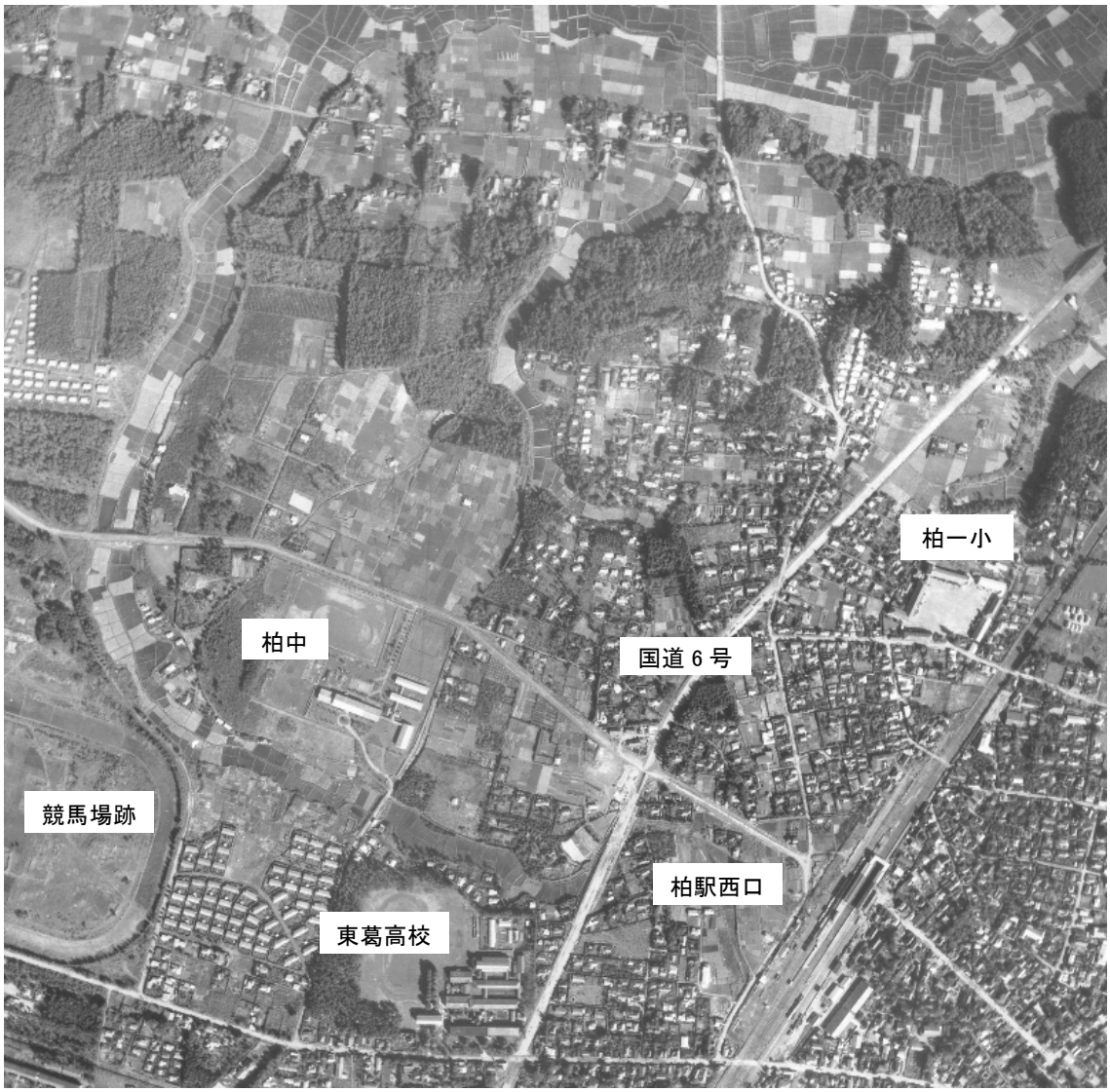
柏町の行政資料はほとんど残っていないようですが、下記は「昭和 27 年版柏町勢要覧」に掲載されている柏町図と人口です。昭和 27 年の地図では、現在の明原 1 丁目と 2 丁目に、あけぼのを併せた地域の町名が明原になっています。明原 3 丁目と 4 丁目地区は町名は篠籠田で、その東側部分に位置しています。



大字名	町名	人口	大字名	町名	人口	大字名	町名	人口
戸張	戸張	604	柏上	林間学園	46	豊四季二区	豊町	1,033
柏上	上一丁目	188		幸町	732		新富町	646
	上二丁目	352		東台	193	豊四季三区	栄町	693
	上三丁目	616	柏下	仲町	529		三区一丁目	1,142
	元町	610		下町	876		三区二丁目	334
	東町一丁目	674		呼塚	533		小柳町	451
	東町二丁目	854	松ヶ崎	松ヶ崎	894		富里町	374
	東町三丁目	337	篠籠田	篠籠田	757		末広町	640
	東町四丁目	459		明原	1,243		日立町	1,744
	櫻台	346	高田	高田	603		旭町	1,553
	日本建材	36	豊四季一区	富士見町	833		向原町	672
	大塚	161		三號	596		智明寮	29
	柏学園	8				合計		22,391

3.2　昭和 30 年頃の明原（1955 年頃）

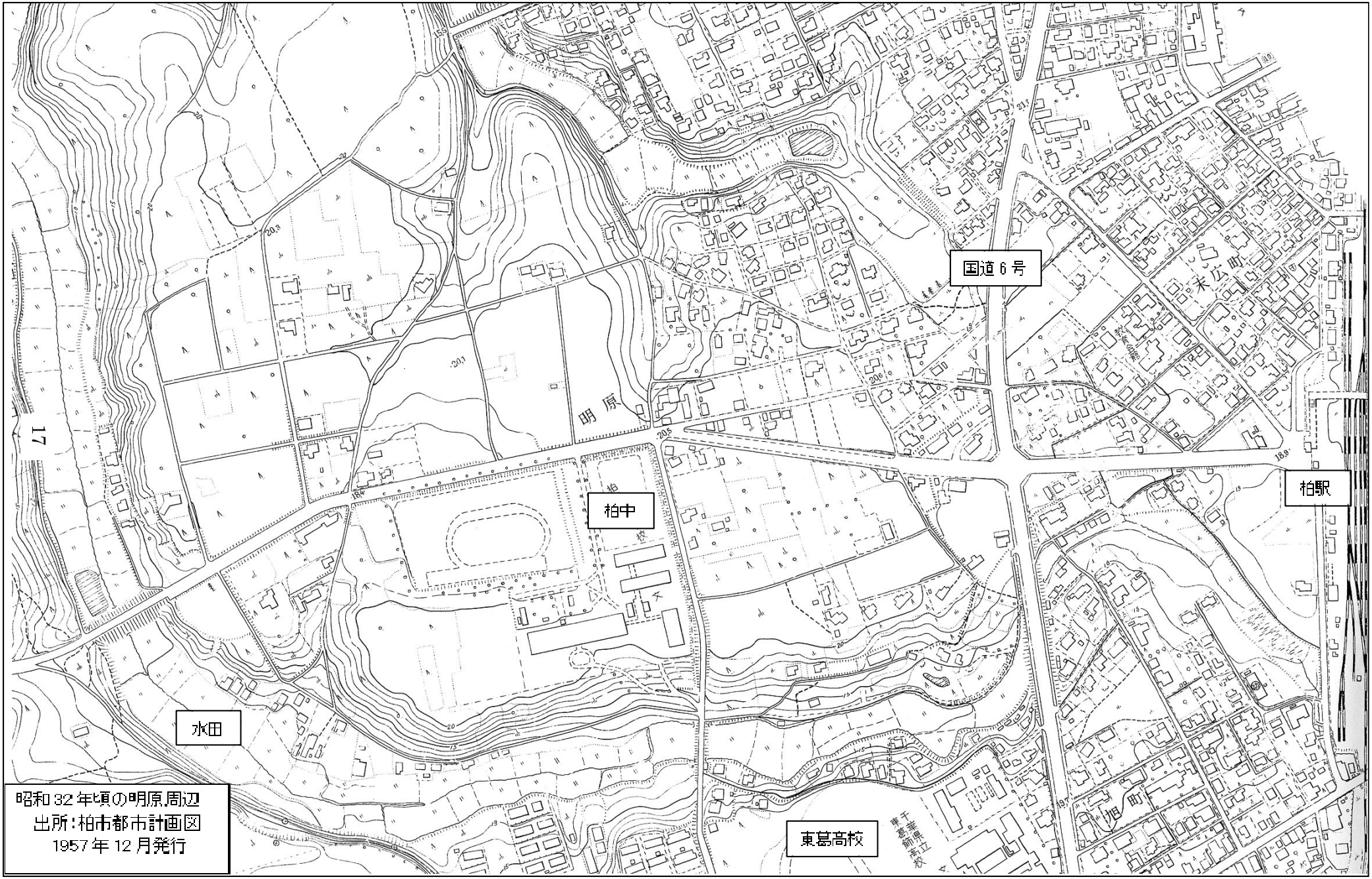
昭和 30 年に撮影された航空写真と、次頁に昭和 32 年の地図を示します。地図は柏市が作成した 2m 四方以上の大きな都市計画図で、国会図書館に保管されていたものの明原部分をコピーしたものです。



出所：国土地理院ホームページ、1955 年 10 月 13 日米軍撮影

昭和 22 年の航空写真と比べると、柏中の校舎があることが分かります。昭和 23 年 8 月末に、戦時中の富勢の部隊の兵舎が、最初の校舎として移設されました。その後、校庭が整備され、新校舎や講堂が新設されました。

東葛飾郡柏町は昭和 29 年 9 月に東葛市となり、同年 11 月に柏市と改称されました。昭和 27 年から 31 年に掛けて、当時、新国道と呼ばれた国道 6 号の流山～柏区間の建設が行われました。また、昭和 31 年 12 月には、柏駅西口が開設され、柏駅西口から柏中方面に向かう広い道路も整備されています。林が減り住宅が少し増加しましたが、2 丁目地区を除くと、住宅は疎らです。



昭和32年頃の明原周辺
出所：柏市都市計画図
1957年12月発行

3.3　昭和 40 年頃の明原（1965 年頃）

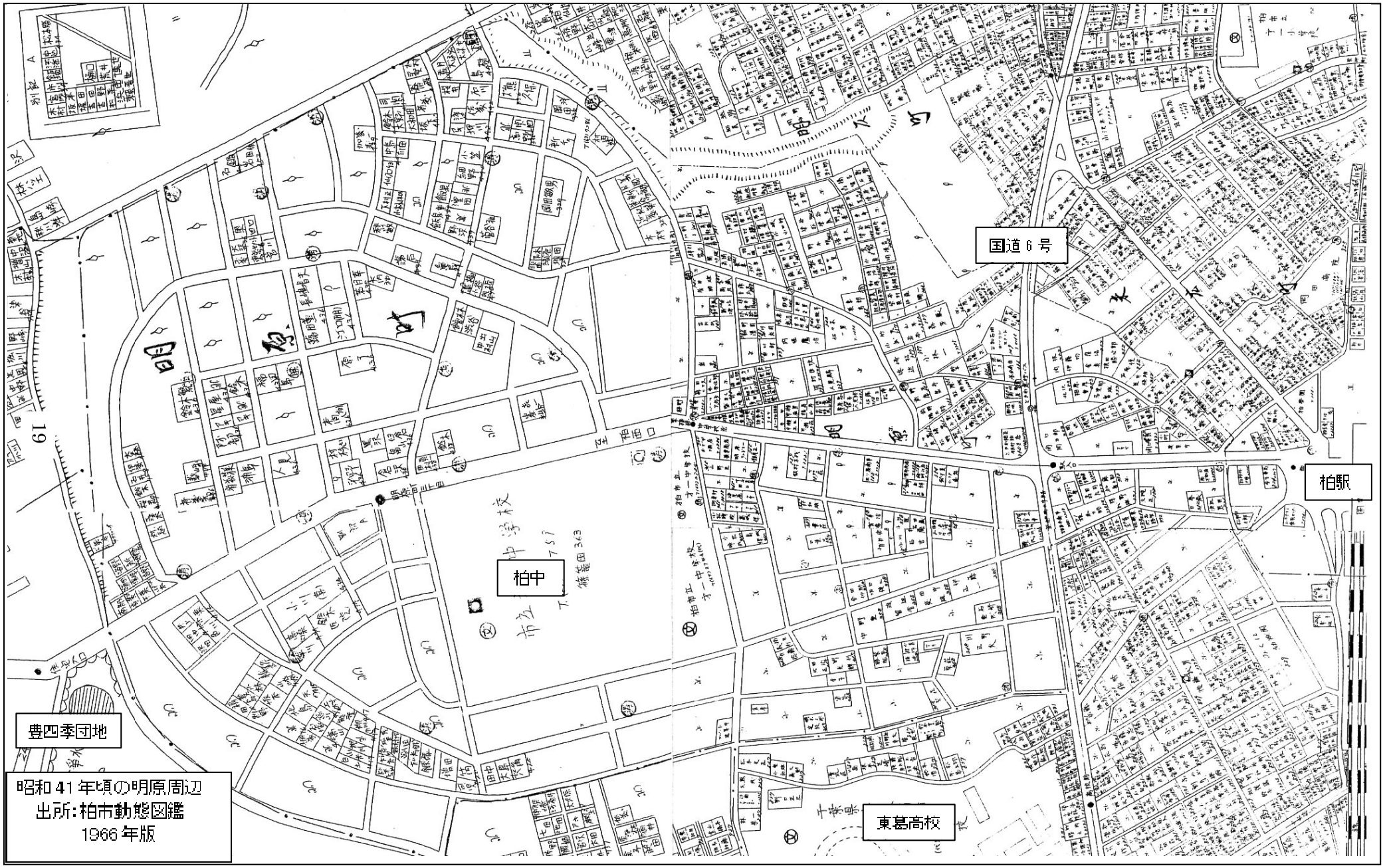
昭和 40 年（1965 年）に撮影された航空写真と、次頁に昭和 41 年に発行された住宅地図を示しました。

出所：国土地理院ホームページ、1965 年 9 月 30 日国土地理院撮影

先ず、競馬場の跡地に豊四季団地ができていることが分かります。豊四季団地は、昭和 38 年に着工し、昭和 39 年に最初の入居が始まりました。

明原地区を中心とする柏駅西口の区画整理が、昭和 33 年から 45 年に実施されました。昭和 40 年の航空写真では、明原 2 丁目とあけぼの町の境付近と、豊四季台近隣センターがある西町に接する付近を除くと、現在ある道路が全てできています。西口第一、第二、第三公園の敷地も確保されています。

水田は、既に埋め立てられています。水田へと続く斜面は宅地化のため、階段状に整地されています。例えば、柏中の南側の草原のスロープは、道路と宅地へと変わっています。その際削られた土は、水田の埋め立てに用いられたと言われます。柏中の敷地も、ずい分小さくなりました。明原 2 丁目地区を除くと、造成された宅地には空き地が目立ちます。



昭和41年頃の明原周辺
出所:柏市動態図鑑
1966年版

3.4　昭和 50 年頃の明原（1975 年頃）

次頁以降に昭和 50 年（1975 年）に撮影された航空写真を示しました。航空写真では、自分の家を確認したいものです。それに応えるため、明原の 1 丁目から 4 丁目について、少し拡大した写真を掲載しました。

区画整理は昭和 45 年に完了し、現在ある道路になっています。この 10 年間で、住宅が大幅に増加しました。2 章に示したように、1965 年には明原の人口が 1,755 人、世帯数が 470 でしたが、1975 年には人口は 3,876 人、世帯数は 1346 になり、人口は 2.2 倍、世帯数は 2.9 倍に増加しました。

昭和 40 年の写真で空き地が目立った明原 1 丁目、3 丁目、4 丁目も、空き地は随分少なくなりました。6 号線沿いや西口駅前通りにはビルが建ち始めました。明原周辺では、国鉄の官舎が集合住宅に変わっています。

柏市では昭和 41 年度から住居表示の改正が行われ、明原地区は昭和 42 年度に現在の明原 1 丁目～4 丁目の住居表示に変わりました。

3.5　現在（平成 28 年）の明原

2016 年現在の明原地区の地図として、柏市ホームページに掲載されている柏市都市計画図を掲載しました。41 年前の 1975 年の航空写真と比べると、住宅が増加していることが分かります。

2015 年の統計データでは、明原の人口は 4,651 人、世帯数は 2,489 になりました。前項に記載した 1975 年と比較すると、人口が 1.2 倍、世帯数は 1.8 倍と、世帯数の増加が顕著です。

地図からは明確ではありませんが、集合住宅が増加しました。特に、近年は単身者向けの集合住宅が増え、平均年齢の上昇の抑制に役立っているものと思います。その他、ほとんどの空き地は駐車場になっています。

1975 年の明原一丁目、二丁目、三丁目、四丁目地区

出所：国土地理院ホームページ、1975 年 1 月　国土地理院撮影

西口第一公園
柏中

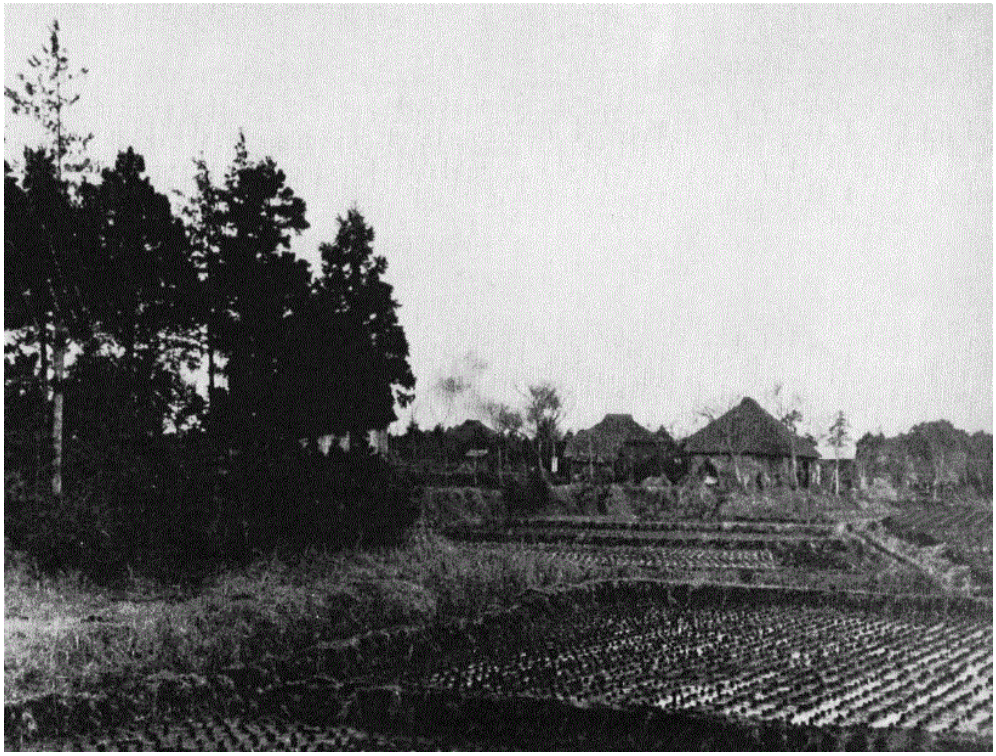
柏中
豊四季団地

現在(2016年)の明原周辺
出所:柏市ホームページ
柏市都市計画図

3.6 明原周辺の戦前・戦後

＜大正 10 年＞現在の国道 6 号付近から、柏駅方面を望む（出所：歴史アルバムかしわ）

茅ぶき屋根の後ろ付近が柏駅です。当時は、駅裏まで谷津田が入り込んでいました。

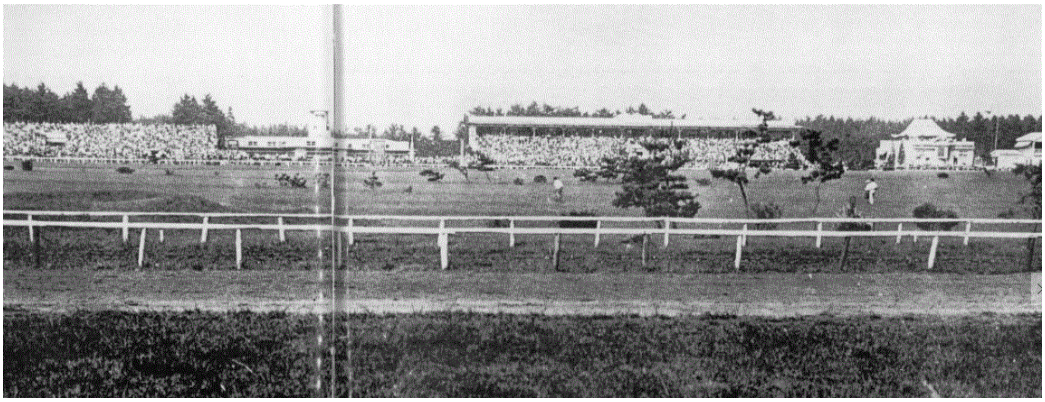


＜昭和 9 年＞東葛飾中学校の校舎（出所：歴史アルバムかしわ）

旧制東葛飾中学校は、昭和 23 年に新制東葛飾高等学校になりました。前の道路は、今もある同校南側の流山に通じる道路です。

＜昭和 10 年頃＞競馬開催中の柏競馬場（出所：歴史アルバムかしわ）

戦後も昭和 24 年まで競馬が開催されていました。



＜戦時中＞柏国民学校（後の柏一小）での軍事教練（出所：歴史アルバムかしわ）

昭和 22 年に柏一小と改称される校舎の前で、柏町青年学校生徒らによる軍事教練。

＜昭和 30 年ころ＞柏中学校の校舎と南側の水田（出所：歴史アルバムかしわ）

富勢の連隊の兵舎を移設し昭和 23 年に竣工した校舎、南側の草原のスロープ、その前面には稲の切株が残る水田が見えます。

＜昭和 30 年代後半＞柏駅西口（出所：歴史アルバムかしわ）

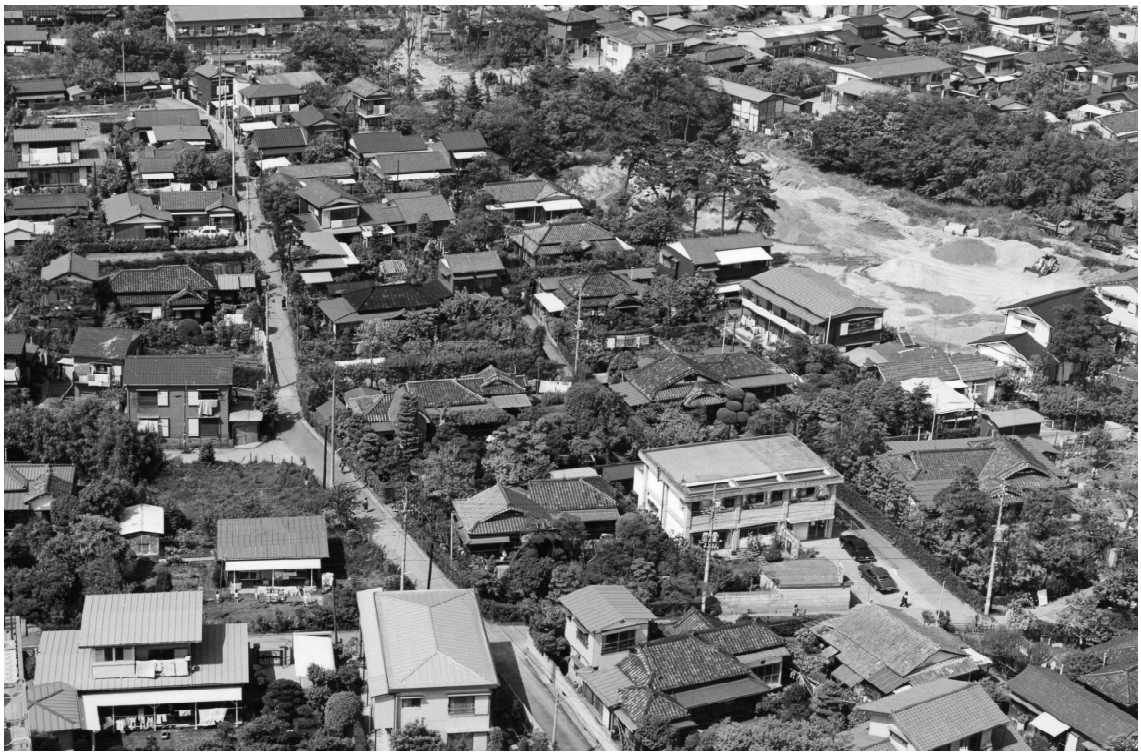
昭和 31 年には国道 6 号（呼塚-小金間）が開通し、柏駅西口も開設されましたが、まだ柏駅西口広場は荒野原（柏市民新聞）でした。

＜昭和 38 年＞国道 6 号と市内最初の信号機（出所：目で見る柏の 100 年）

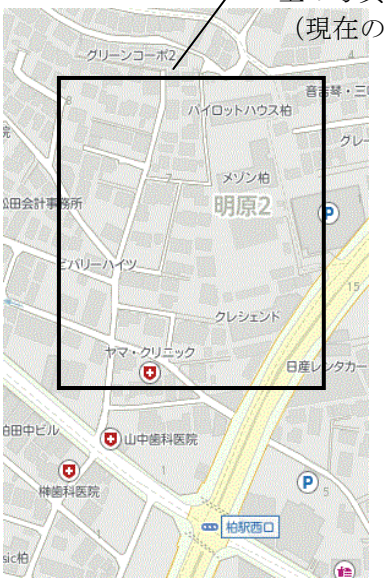
昭和 31 年に開通した国道 6 号の東葛高校の交差点に、市内で最初の信号機が設置されました。左側が東葛高校。

＜昭和 51 年＞明原二町目（写真提供：阿部玲子氏）

明原二丁目の航空写真です。今と比べて樹木が多く、また、大きな空き地が残っています。



上の写真の場所
（現在の地図）



写真出典：

・「歴史アルバムかしわ」昭和 59 年 11 月、柏市史編さん委員会編集、柏市役所発行

・「目で見る柏の 100 年」2008 年 2 月、中村勝・染谷博監修、発行人神津良子、発行所㈱郷土出版社

柏市西口地域の戦中・戦後の変遷

○柏市になるまでの沿革

大正 3 年（1914 年）10 月 10 日、千代田村・豊四季村組合を解消し千代田村が発足
大正 15 年（1926 年）9 月 15 日、千代田村が柏町となる
昭和 29 年（1954 年）9 月 1 日、東葛市となる
柏町を含め東葛飾郡下に、土村などがあり、東葛市として制定したが、多くの市民から、柏の名称の方がなじみが深いということで 2 ヶ月で柏市に変更した。
昭和 29 年 11 月 15 日に柏市となる。
柏市となった当初の人口は 4 万 5 千人、2015 年現在の人口は 41 万で、10 倍近い市となり、千葉県では千葉市、船橋、市川、松戸に次ぐ 5 大市となりました。

○柏飛行場と柏競馬場

戦中、戦後、柏の西口から、豊四季、十余二方面には、歴史に残る 2 つの名所がありました。
1 つは**柏飛行場**です。
戦時中、日本の軍隊の飛行場が十余二を中心にありました。終戦後、昭和 20 年（1945 年）に米軍に接収され、通信基地として使用されました。
昭和 54 年 8 月 21 日、日本に全面返還され、柏の葉公園、東大キャンパスなどの施設になっています。
※私は、昭和 36、37 年ごろ飛行場あとに住んでいた友人を訪ねた時には、滑走路のコンクリートの残骸や萱で覆われた敷地の道なき道を歩いたことを覚えています。

2 つ目は**柏競馬場**です。
今の豊四季団地周辺は競馬場でした。柏駅から、東武線で「柏競馬場」という駅があり、競馬開催中は停車していました。昭和 3 年から 15 年までの 12 年間、競馬が開催されていました。
その後、戦争に突入、「軍隊の鍛錬所」の施設となりました。横浜に住んでいた叔父が、柏の鍛錬所は寒い所だったと話したことを覚えています。確かに競馬場ですから、鍛錬をするのにはよい場所だったのでしょう。冬の風は筑波おろしで厳しいものがあったと思います。
終戦後、再び競馬が復活しましたが、昭和 25 年（1950 年）2 月を最後に閉鎖され、船橋競馬に合流されました。船橋競馬では、今でも「柏記念」として毎年 5 月 5 日に開催され、船橋競馬場の話では、船橋競馬で一番の重賞レースで人気が高く、今でもこのレースは好評で、多くのファンが参加するそうです。
※私の明原の家は、昭和 30 年に建てられ、前面は田んぼ、父は蛙の声が良いということで選び建てました。田んぼの横には大きな池があり、競馬場の馬の脚を洗っていた池と聞いています。私は、馬の脚を洗っていたところは見ていませんが、ウシガエルの鳴き声はよく聞きました。

○柏駅西口の開設と周辺の区画整理

柏駅に西口が出来たのは昭和 31 年（1956 年）12 月 27 日です。

その後、周辺の区画整理が進みました。昭和 33 年（1958 年）から始まり、昭和 45 年（1970 年）1 月 17 日に終了。

西口のバスが走りだしたのは、区画整理の始まる一年前の昭和 32 年 1 月 16 日、柏西口→明原→三間→松ヶ崎→柏西口が開通、今で言う市内循環バスでした。

※私は昭和 31 年 4 月から日本橋三越に勤務しました。当時の道路は土と草の道に車の轍が 2 本、その中の泥の少ないところを選んで柏駅まで歩いた。雨の日は田んぼの中を歩くようで、革靴などではとても歩けない。家から柏駅までゴム長、駅で短靴に履き替え、三越まで通勤しました。

○白タクの相乗りで駅へ

今の向原住宅入口のバス停付近に白タクが出現。特に雨の日には利用者が多く、4～5 人が集まると走り、1 人 100 円。車の中に缶詰めの空き缶がぶら下げてあり、個々に入れる、運転手は直接受け取らない。当時の「かけ、もりそば」が 30 円から 35 円だったから 3 杯分くらいの値段。それでも利用しました。

その後、豊四季団地が昭和 39 年（1964 年）4 月から入居を始め、居住者は一万人、団地循環バスも開通しました。

戦後 70 年の節目にあたり、隔世の感があります。今は豊四季団地も改築が進み、近代的な居住空間、バスは頻繁に通る、スーパー、コンビニが数多くでき快適な生活に感謝する日々であります。以上、参考に申しあげました。

2015.9.7　三津木俊幸